

平成 28 年度病害虫発生予察 注意報 第 3 号

平成 28 年 8 月 1 日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

対象作物：夏秋トマト

対象病害虫：コナジラミ類（オンシツコナジラミ）

- 1 対象地域 県内全域
- 2 発生面積 多い
- 3 発生量 やや多い

4 発表の根拠

(1) 7月中下旬の巡回調査では、発生種はすべてオンシツコナジラミであり、発生圃場率は平年より高く、株当虫数は平年よりやや多かった（図）。

発生圃場率：50.0%（平年：15.6%、前年：0%）

平均株当虫数：2.3頭（平年：1.9頭、前年：0.3頭）

(2) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長され、気象予報によれば気温は平年並及び平年より高い確率がともに40%、降水確率は平年並の確率が40%と予想されており、今後発生の増加による被害拡大が懸念される。

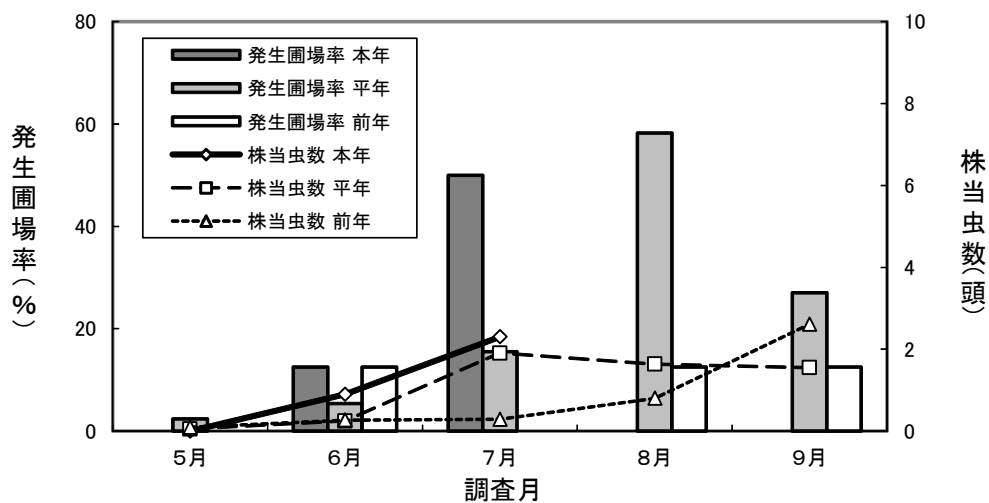


図 病害虫発生予察巡回調査におけるトマトのコナジラミ類の発生推移

4 防除対策

- (1) 本虫は葉裏に寄生して吸汁加害し繁殖も旺盛なため、早期発見に努め低密度のうちに防除を行う。
- (2) 本虫は雑草にも寄生して増殖するので、圃場内外の除草を徹底する。
- (3) 防虫ネット（0.4mm 目合い）などを使用し、本虫の侵入を阻止する。
- (4) オンシツコナジラミに対してはラノーテープの防除効果が高いので、タバココナジラミが発生していない圃場ではラノーテープを発生前～発生初期に適切な位置に設置すると効果的である。
- (5) 夏秋トマトではすすかび病の多発生にも注意が必要なので、本虫に対する殺虫剤を散布する際には混用しても問題の無い殺菌剤ですすかび病も防除すると効率的である。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームのホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用すること。

ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>



病害虫対策チームホームページ